

採用施設一覧 (◎は基幹施設、○は連携施設)

◎広尾病院
◎駒込病院
◎墨東病院

◎多摩総合医療センター
◎多摩北部医療センター

○大久保病院
○神経病院
○松沢病院

○小児総合医療センター
○多摩南部地域病院

研修プログラムの特徴

● 広尾病院 (基幹施設)

東京都立広尾病院施設群総合診療専門研修プログラム

プログラム責任者：総合救急診療科 米山 尚慶 プログラム研修期間：4年
連携施設病院：駒込 / 松沢

大島医療センター / 神津島村国民健康保険直営診療所 / 三宅村中央診療所 / 町立八丈病院 / 小笠原村診療所 / 奥多摩病院 / 同善病院 / 家庭医療学レジデンスー東京 (CFMD)

広尾病院は各科の間の垣根が低く、円滑な診療体制に繋がっています。特筆すべきは島しょ医療を基幹医療の1つに掲げている点で、年間250件の航空機による救急搬送症例の他、紹介受診される多数の症例にも日々対応しています。病院全体の入院症例中1～2割が島しょからの症例で、都心の病院とは思えないような症例にも出会えます。当院では総合救急診療科・病院総合診療科・救命救急センターの他、各専門内科、小児科での必修研修を行います。また産婦人科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科などの外来診療研修も準備し、まさに科にとらわれない総合診療医を目指します。地域で1人で自立できる学びを支えるワークショップや、レクチャーも豊富で海外研修も準備しています。

研修中に赴任する地域医療機関は、島しょ部では大島医療センター、神津島村診療所、三宅島中央診療所、町立八丈病院、小笠原村診療所、山間部では奥多摩病院があります。現地では診療以外に地域保健なども含めた地域医療を学ぶことができます。地続きでない島での医療活動は決して生易しいものではありません。しかし経験豊富な指導医の下、隔絶された環境ではなく、のびのびと総合診療の実践を堪能できます。いずれの島も生活面のサポートは充実しており心配はいりません。総合診療を極める上で最も整備された医療環境が用意されています。その先には地域と病院で活躍できる病院総合医はもちろんのこと、へき地診療や国際貢献などで活躍できる医師像が待っています。どっぷり浸かってみるだけの価値は保証付きです！

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1年次	病院総合診療 (内科) 内分泌内科			循環器内科			消化器内科		神経内科	呼吸器内科		腎臓内科
内科全体で1年間の研修を行います。専門内科は希望にあわせ偏りのないよう研修を組みます。内科研修中も総合診療外来研修も行います。												
2年次	小児科			産婦人科			総合救急診療科 (総合診療研修II)					
小児科、産婦人科では入院診療の他、乳幼児健診、妊婦検診なども学びます。総合救急診療科では病院総合医としての診療を学びます。												
3年次	島しょ診療所・病院もしくは山間部病院 (総合診療研修I)											
島しょ部もしくは山間部の診療所・病院での総合診療の実践、地域保健への参画などを行います。地域での役割を認識する1年となります。												
4年次	眼科	耳鼻科	救急科			皮膚科		内視鏡	整形外科			
救急科では救命救急センターで3次救急とICU管理を主体に学びます。他、診療科では外来診療を中心に必要とされるスキルを学びます。												

● 駒込病院 (基幹施設)

東京都立駒込病院総合診療科専門研修プログラム

プログラム責任者：総合診療科 久保田 尚子 プログラム研修期間：3年(～4年)
連携施設病院：広尾 / 大久保 / 墨東 / 多摩総合 / 小児総合

東京医科歯科大学病院総合診療科 / 東京健生病院 / 大泉生協病院 / やまと診療所 / 瀬尾医院 (広島県世羅郡) / 島しょ等

東京都立駒込病院は、各診療科の総合基盤を備えた、がんと感染症を重視した病院であると同時に、東京都区中央部医療圏の2次救急病院です。当院総合診療科は外来研修や病棟研修を通じて一般的な症候学や疾病を学ぶのみならず、

専門診療科へのコンサルテーションを通じて、診断困難な症例へのアプローチをも習得できる場です。都立病院機構5病院にそれぞれの病院の特色を生かしたプログラムが設定されています。駒込病院は腫瘍総合診療プログラムという位置づけです。駒込病院総合診療科、腫瘍内科、緩和ケア科で腫瘍を中心とした研修、広尾病院総合診療科や連携都立病院総合診療科、東京医科歯科大学附属病院総合診療科での総合内科研修、そして地域医療機関である瀬尾医院、やまと診療所、東京健生病院、大泉生協病院、島しょ等での家庭医療研修、地域包括ケア病棟研修、離島診療等を通してオンコジェネラリストを育成します。さらに当院感染症センターで輸入感染症、HIV診療、免疫不全者の感染症治療を学びます。3年間の総合診療プログラムで総合診療専門医取得を目指しますが、4年目も研修目標に応じて幅広く診療科を選択して研修することが可能です。R7年度は総合診療→内科ダブルボード研修（4年で修了）も計画しています。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1年次	総合診療Ⅱ（総診）		内科（腫瘍内科：悪性リンパ腫）			内科（腫瘍内科：固形がん）			内科（感染症科）			
駒込総診で総合診療Ⅱを研修（外科小手術を含む）。駒込腫瘍内科で悪性リンパ腫、固形がんを研修。感染症科で輸入感染症、HIVを研修。												
2年次	内科（感染制御科）		救急科（広尾）			総合診療Ⅱ（広尾病院総合診療科）			小児科（小児総合医療センター）			
駒込感染制御科で免疫不全者の感染症治療を研修。広尾病院で救急、非がんの総合内科研修。小児医療センターで小児科を研修。												
3年次	総合診療Ⅱ（緩和ケア科）			総合診療Ⅰ（瀬尾医院）						総合診療Ⅱ（総診）		
総合診療Ⅱで緩和ケアを研修。瀬尾医院で地域医療におけるオンコジェネラリストの在り方を研修。基幹/連携施設総診で研修総括。												
4年次	自由選択 / あるいはダブルボードとしての内科専門研修											
研修目標の達成に必要な診療科を選択。外科、整形外科等の研修、やまと診療所での在宅医療の研修、大学附属病院での研修等も選択可能。												

● 墨東病院（基幹施設）

都立墨東病院総合診療科専門研修プログラム

プログラム責任者：感染症科 中村 ふくみ プログラム研修期間：4年

連携施設病院：聖母病院 / 篠崎駅前クリニック / クリニック川越 / 揚石医院 / 岩手県立千厩病院 / 岩手県立高田病院 / 一関市国保藤沢病院 / 岩手県立大東病院 / 島しょ等

墨東病院施設群総合診療科専門研修プログラムは病院、診療所などで活躍するための高い能力を有する総合診療専門医を養成することを目的として創設されました。その特徴は以下の通りです。

- ・人口145万人を抱える東京都東部医療圏（墨田区・江東区・江戸川区）において最大の総合病院であり、高度救命救急センターを有する24時間365日の救急医療（東京ER・墨東）、総合周産期母子医療センター、感染症やがん、難病医療も重要な柱として強力に地域医療を支える当院の総合診療基盤を、基幹施設として最大限に活用します。
- ・区東部医療圏において総合診療を実践し指導体制が充実した施設と密接に連携します。
- ・都内島しょや被災・復興地域を含む国内過疎地で地域医療、在宅診療を支える連携施設（岩手県一関市、陸前高田市、新潟県妙高市の各医療機関）での計12ヶ月の研修が行えます。
- ・4年コースにより内科12ヶ月、小児科3ヶ月、救急3ヶ月、総合診療Ⅰ、Ⅱ合計18ヶ月以上の必修研修＋個々の希望やニーズに応じた選択研修も十分な余裕があります。
- ・多彩な施設群での研修によりさまざまな現場を体験する中で、総合診療の意義を体感し、救急に強く多様なステージで力を発揮できる骨太の総合診療医を目指します。
- ・病院総合診療医として、臓器・領域別の専門医や院内外の様々な部署、機関とも連携を図りながら患者さんの全人的・総合的な問題解決を図るノウハウを習得できます。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1年次	内科		内科			内科			救急科			
2年次	内科		放射線科・整形外科・産婦人科			小児科			総合診療専門研修Ⅱ			
3年次	皮膚科・耳鼻科・泌尿器科		総合診療専門研修Ⅱ（聖母病院）			総合診療専門研修Ⅰ（島しょ等）			総合診療専門研修Ⅰ（都内連携施設）			
4年次	総合診療専門研修Ⅰ（都外連携施設）									総合診療科		

● 多摩総合医療センター（基幹施設）

多摩総合医療センター施設群総合診療科東京アカデミー専門研修プログラム

プログラム責任者：救急・総合診療科 綿貫 聡 プログラム研修期間：4年

連携施設病院：神経/小児総合

北海道家庭医療学センター郡部サイト/西伊豆健育会病院/東京都島しょ医療機関など

東京西部の多摩地域を中心とした、都市部における医療施設で研修プログラムを提供します。拠点と成る東京都立多摩総合医療センターは、多摩地域における基幹総合病院であり、幅広い年齢層に対する一般外来診療・救急診療・入院診療をほぼ全診療科に渡り提供しています。幅広い健康問題に対して向き合う環境にあり、総合診療研修に適しています。人に起こる多様な問題に対して、その臨床現場のコンテクストに沿って対応できる臨床医の育成を基本理念としています。本プログラムでは、小児期については小児総合医療センターと連携、成人については多摩総合医療センター救急・総合診療科を中核とし、各診療科との連携で症例経験を得ることが可能です。さらに通院困難者・高齢者においては近隣医療機関や東京都島しょの施設と連携し、在宅医療もフィールドに含み、医療を展開します。生物科学的な観点だけでなく、ライフサイクルイベントに配慮し、家族関係・心理社会的な観点からもアプローチを行うことが可能な医師の育成を図ります。この中で、他職種ともチームを形成し、連携することで、調整・統括業務が可能となるよう、コミュニケーションスキルの向上とともに、チームビルディングの実際を経験できる環境を提供します。各診療科での指導とともに、2-3ヶ月に1回の定期的な面談、ポートフォリオ指導・勉強会、ERランチョンレポート（臨床推論指導）、家庭医療勉強会（家庭医療のコア内容・診療科/チーム運営に必要なマネジメントスキルなどを指導）等により内容を補完します。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1年次	救急科		選択研修			総合診療Ⅱ（総合診療科）						
2年次	総合診療Ⅰ											
	総合診療Ⅰは北海道家庭医療学センター郡部サイトもしくは西伊豆健育会病院											
3年次	内科（総合診療科）						総合診療Ⅰ					
	総合診療Ⅰは武蔵国分寺公園クリニックもしくは小金井ファミリークリニック											
4年次	総合診療Ⅱ（総合診療科）						小児科			選択研修		

○ 多摩総合医療センターで研修可能なサブスペシャリティ領域

病院総合診療

プログラム責任者：救急・総合診療科 綿貫 聡 プログラム研修期間：2年

本コースは日本病院総合診療医学会認定病院総合診療専門医制度に則った研修の提供を行う。

病院総合診療医には、幅広い症候・疾患に対する最新の医学知識に基づいた思考力と行動力、総合診療医ならではのコミュニケーション能力や組織管理能力、地域包括ケアの概念に代表される地域と密接に関わる医療を展開する総合力が求められる。

拠点となる都立多摩総合医療センターは、多摩地域における基幹総合病院であり、幅広い年齢層に対する一般外来診療・救急診療・入院診療を提供し、病院総合診療研修に適している。本プログラムでは、都立多摩総合医療センター救急・総合診療科を中核部門とし、水戸協同病院総合診療科、飯塚病院総合診療科、川崎市立多摩病院総合診療内科、東京ベイ・浦安市川医療センター総合内科と連携して研修を行う。

新・家庭医療

プログラム責任者：救急・総合診療センター 綿貫 聡 プログラム研修期間：4年

本コースは新・家庭医医療専門医制度に則った研修の提供を行う。

拠点となる都立多摩総合医療センターは、多摩地域における基幹総合病院であり、幅広い年齢層に対する一般外来診療・救急診療・入院診療をほぼ全診療科に渡り提供している。幅広い健康問題に対して向き合う環境にあり、総合診療研修に適している。

本プログラムでは、小児期については小児総合医療センターと連携、成人については多摩総合医療センター救急・総合診療科を中核とし、各診療科との連携で症例経験を得ることができる。プライマリケアの経験は北海道家庭医学センター郡部サイト、西伊豆健育会病院、近隣医療機関や東京都島しょの施設と連携する。各診療科での指導とともに定期的な面談、勉強会、指導等により内容を補完する。

● 多摩北部医療センター（基幹施設）

多摩北部医療センター総合診療専門研修プログラム

プログラム責任者：リウマチ膠原病科兼総合診療科 杉原 誠人 プログラム研修期間：3～4年

連携施設病院：広尾/駒込/多摩総合/多摩南

東京女子医科大学病院 / 公立置賜総合病院 / 奥多摩町国民健康保険奥多摩病院 /

社会福祉法人恩賜財団済生会支部茨城県済生会 常陸大宮済生会病院 / 医療法人社団実幸会 石橋クリニック

多摩北部医療センターを基幹施設とする、東京都北多摩北部医療圏（人口約74万人）中心の総合診療専門医育成を目的とした研修プログラムです。当院は医療圏の中心的な急性期病院であり、北多摩北部医療圏・近隣医療圏にある連携施設とともに研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる総合診療専門医を目指します。

将来、総合診療医として活動する場に応じて、診療所に比べて主に病院での研修に重点を置く研修（病院重点）や病院に比べて主に診療所での研修に重点を置く研修（診療所重点）など、多様なローテーションを組み立てることができます。

なお、内科とのダブルボードを希望する者はさらに1年間の内科研修を付加することができます。

上記の様に多くの施設と連携を組んでおり、基幹施設である多摩北部医療センターと連携施設との3年間で、総合診療専攻研修において求められる7つの資質・能力（包括的アプローチ、一般的な健康問題に対する診療能力、患者中心の医療・ケア、連携重視のマネジメント、地域包括ケアを含む地域志向アプローチ、公益に資する職業規範、多様な診療の場に対応する能力）を効果的に習得することができます。

症例をある時点で経験するというだけでなく、主治医として、初診、入院から退院、外来通院まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1年次	総合診療科						内科					
2年次	総合内科外来（初再診）、内科系、循環器系研修、JMCC受講											
3年次	小児科			多摩総合医療センターER			総合診療科					
3年次	希望科（院内）			外科・泌尿器科・皮膚科			総合診療専門研修Ⅰ（連携施設）					
(4年次)	総合診療専門研修Ⅰ（連携施設）						総合診療科					

○ 多摩北部医療センターで研修可能なサブスペシャリティ領域

総合診療科→ 内科ダブルボード

プログラム責任者：総合診療科 杉原 誠人 プログラム研修期間：4～5年

本プログラムは、総合診療専門医、内科専門医のダブルボードコースです。当院は中規模の地域密着型総合病院であり、地域のニーズとして総合診療、内科両方の能力が求められています。都市型総合専門医としてのマインドを持つ内科系ホスピタリストの育成を目標としています。総合診療専門医研修をプログラム制で3年修了したのち、内科専門医研修を1年のカリキュラム制で1年修了します。3年次修了後に総合診療専門医を、4年次修了後に内科専門医を、それぞれ取得可能となります。